

今を未来に

6年生を送る会 開催される(2月28日木曜日)

先週は、6年生を送る会のリハーサルにたくさんの保護者の方が参観に来ていただきました。ありがとうございました。昨年度は複数の学年のリハーサルを観ていただいた保護者の方から、「下の学年の子の方が真剣に取り組んでいる。」と、リハーサルを見学した感想を伝える時に子どもたちに直接お話をしていただいた学年がありました。今年も、リハーサルを見に来ていただいた方から、おほめの言葉をかけていただいたという報告を受けています。リハーサルや当日を見学いただいた6年生の保護者の皆さまからの感想をまたお寄せください。

当日は、予定より少し早く全校児童が体育館に集まったのですが、6年生の保護者の方に体育館へ入っていただく時刻を過ぎても、全校の最終リハーサルを5年生を中心に行っていました。リハーサルが終わる直前には6年生が体育館入口に来てくれたので、すぐに6年生を送る会をスタートすることになりました。

【保々ステーション・6年生入場】



5年生の2人が、ステージ中央に現れ、ミュージックステーション風に、6年生を送る会のスタートを切ってくれました。6年A組から順番に、一人ずつ入場をしました。入口に台を組み合わせてミニステージを作り、そこで一人ずつポーズをとって、体育館前方のステージに進みます。5年生は前もって6年生にいろいろ質問がしてあって、そこからアナウンスする内容を選んだようです。その内容も考えながら、6年生は自己アピールしながら入場しました。



5年生の代表による「はじめの言葉」から始まり、校長からの話があって、全校で校歌を歌いました。1年生から6年生が揃って歌う校歌はこれが最後となります。気持ちを込めて歌おうとしましたが、雨音に少し負けている感じもありました。実は、この雨音にずっと悩まされることになるのですが・・・。

【4年生：感謝をこめてあたりまえクイズ】

4年生はあたりまえ体操のリズムに合わせて、クイズを出してくれました。回答者は6年生で、正解のポーズをクイズごとに2人出てきて、ポーズで伝えてくれます。「1年生ではじめに習う漢字は何？」(人！一！自信たっぷりでしたが、答えは大でした)「2年生の国語の教科書に出てくるお手紙の作者は」(2年生が大きな声でアーノルドローベルと答えてくれました。



2年生の担任の先生は大慌て)「リコーダーで最初に習う音は？」(これはよく覚えていました。シです。)
「奈良の東大寺大仏が挙げている手は右手？左手？」(右手、左手、両手！場の盛り上げありがとう)
「2年続けて担任をしてもらった小井先生の口癖は何でしょう」(うるさい！、腹減ったあ、静かにしろ、黙れ、チョーク短か、おーい何しとんの、・・・てことは。???！それは口癖ではないと突っ込みたくなる回答でした。)

あたりまえ体操のリズムに合わせてクイズをした後は、6年生へのお礼の言葉で締めくくりました。今までありがとうございました。

【3年生：3年生からのおめでとう】

3年生は、6年生も習った「パフ」の歌の後、教科書にある「三年とうげ」の群読をしてくれました。朝鮮半島を舞台にしたお話で、「転ぶと3年しか生きられない」という言い伝えを聞いて病気になってしまったおじいさんを、「2回、3回とたくさん転ぶと寿命が延びるよ」と、とんちで助けた少年の話です。会場のみannaにも場面がわかる大きな挿絵や、軽快な手拍子も印象的でした。最後は、運動会でも踊った保々小ソーランで、卒業する6年生にお祝いの気持ちを表してくれました。



【2年生：6年生に会えてよかった】

2年生は、国語「スイミー」の朗読劇でした。はじめは、原作通りにお話が進みましたが、途中で6年生が登校班で仲良くしてくれたことや児童大集会で楽しませてくれたことがストーリーに加えられ、みんなで泳ぐことを提案した黒い魚スイミー、みんなで泳ぐ練習をしてスイミーが目となり、大き



な魚を追い出します。6年生のおかげで元気になった自分たちのお礼の気持ちをお話の中にうまく取り入れていました。

最後の「あえてよかった」の歌は、ジャズ調の曲調で、場を明るくしてくれました。鍵盤ハーモニカをトランペット風に扱ったり、歌と交互に演奏したりする姿は、とってもかっこよく、張り切る姿がとってもよかったです。



【1年生：ありがとう6年生】

巡り合わせとは言え、やっぱり一番お世話になったのは1年生です。そのお礼の気持ちを、そして自分たちの成長した姿を見てもらおうと、「きらきらぼし」を英語・ポルトガル語・中国語で歌ってくれました。また、「YUME日和」では、歌詞の中に「手をつないでくれて」「お弁当給食でも・・・」「ありがとう」「君の笑顔が大好き」「中学校へ行っても忘れない」という言葉が入っていました。最後の呼びかけの中にも遠足、お弁当給食、登校班などでお世話になったお礼の言葉が入っていました。いつまでも忘れない6年生です。



【5年生：心が元気になる贈り物】

最高学年としてのリーダーのバトンを受け取る5年生は、自分たちの成長を伝えることで、6年生に安心して卒業してもらおう送り方を選びました。「こころの色」「ありがとう」「生きる」（作者：谷川俊太郎）の群読でした。「こころの色」は、卒業を前にした6年生が自分の成長をどう振り返るか、どんな色に感じるかを問いかける詩に受け取れました。「ありがとう」の詩には「お母さんありがとう 私を生んでくれて 口に出すのは照れくさいから 一度きりしか言わないけれど」という詩があって、いつ聞いても胸を打ちます。

そして、「生きる」は「生きているということ」をいろいろな角度から見て作者の気持ちを受け取り、卒業していく6年生のみなさんは「生きる」ことをどう考えているか教えて欲しい、そして「人は愛するということ あなたの手のぬくみ いのちということ」という最後の言葉を6年生に贈りたいという気持ちが、伝わってきました。

6年生を送る会を振り返って教室で話し合った下級生からは、6年生の歌声に感動したという話と同じくらい、5年生の群読の力強さが印象に残ったという声が多く出されたそうです。



【全校の歌：USAの替え歌】

ぎりぎりまで練習をした成果が見事に現れていました。6年生がずっと手拍子をしてくれる中、リズムに合わせたダンスはバッチリでした。「みんなをひっぱる6年生」「いつも本当にありがとう」「みんなを守ってくれたね」「これからも頑張るね」「ありがとうとか大切じゃまだ足りないけれど、せめて言わせて大好きですと」・・・と歌詞は続いて行きました。



【6年生から：今届けたいこの思い】

6年生から下級生にお礼の気持ちが話され、卒業式で歌う「今、卒業の時」を聴かせてもらいました。練習のはじめのころは2部合唱が1部合唱になってしまうことがあると聞いていましたが、そこはさすが6年生です。見事に2部合唱になっていました。また、気持ちのこもった歌声で、しっかりと下級生のお手本となっていました。



【引き継ぎ式】

いよいよ6年生を送る会も終盤です。6年生から5年生へ校旗のバトンが渡されました。1年前先輩から引き継いだ保々小の伝統を下級生のみんなに引き継ぐ、この時の6年生の子どもたちの気持ちはどんな思いなのでしょう。ほっとする気持ち、満足げな思い、少しさみしい気持ちもあるかもしれませんね。そして、そのバトンを引き継いだ5年生は、責任感と不安とが混じった気持ちかもしれません。



【6年生へのプレゼント】

5年生が作ってくれたカラフルバックの中に、1年生のお花のペンダント、2年生の飛び出すカード、3年生の保々小の思い出しおり、4年生の変わるカードが入れられ、下級生を代表して1年生から6年生へ渡されました。受け取る6年生の本当に優しい表情が嬉しかったです。

また、プレゼントを渡せた1年生は大満足でした。中には、握手をしてもらっている子もいましたね。



【6年生退場】

5年生からの終わりの言葉では、6年生に送る会の感想を求める場面がありました。どの学年の出し物も、贈られた言葉やプレゼントも、6年生のみんなに感謝の気持ちとして届いていましたね。最後は花道を歩いて退場となりました。卒業おめでとう！



【そして、次の日 3月1日金曜日5・6限目】

6年生は、卒業を前に、6年間お世話になった学校の掃除を、2時間かけて行いました。卒業を前に行うこの奉仕作業は、保々小学校の伝統となっています。普段から掃除をしている場所でも、なかなかきれいにしきれていないことに気付きながら、一生懸命掃除してくれる6年生でした。「6年生を送る会」を開いてくれた下級生へのお礼の気持ちのようにも感じました。



児童昇降口、水まわり、トイレのスリッパを置く場所のペンキ塗り、体育倉庫の大掃除、中庭の畑づくり、特別教室のワックスがけ、止まれマークの書き直し、窓拭きなどなど、いっぱい綺麗にしてくれて、ありがとう。

